

友達

香芝市立香芝中学校 2年 額田 遥

私は、つい最近保健の教科書の薬物についてのページで不思議な文章を見つけた。それは、「友達に誘われても断る」だ。私は思った。他人を悪い道へと誘ってくる人は本当に「友達」なのか、と。そこで、私の思う友達の人物像を考えてみることにした。

私の思う「友達」は、私の気持ちに寄り添い理解してくれて、お互いに信頼でき、助け合うことのできる人のことだ。私の好きな歌手の一人、西野カナさんの『Best Friend』では、

『嬉しいときは自分のことみたいに喜んでくれてダメなときはちゃんと叱ってくれる存在』とある。本当にそのとおりだ。「友達」とは、決して悪い道をすすめるのではなく、反対に、それを止めてくれる存在であるはずだ。

すると、やはり文章に書いてある「友達」は本当に「友達」なのかということに疑問を持つ。こういう人を「トモダチ」と表すことにする。

では、「トモダチ」はどんな人なのかということだが、それは「友達」の真逆、つまり自分のことしか考えないで、他人を悪いことに巻き込んだり、こき使う人だと思う。また周りを見ることができないで、人に嫌がられ一人ぼっちになってしまう人のことを指す。私はそんな人間にはなりたくないし、また、一緒にいたいとは思わない。

ところで、私には座右の銘にしている大好きな言葉がある。それは、

『命には限りがあるから大事なんや。限りがあるから頑張れるんやで。』

である。これを初めて聞いたとき、私はこの限りある命を無駄なく過ごすためにはどうすれば良いのか気になった。真っ先に思い付いたのは、後悔のないように過ごすということだった。私は今までいろんなことで後悔してきた。そして、引きずることが多く、起こったことばかりを考えてしまっていたが、今はこうして立ち上がって前を向くことが出来ている。それは、やはりどんな日でも、変わらずに話しかけてくれる「友達」のおかげだ。そんな「友達」にはいくつかの種類がある。

例えば、僅かな変化に気付き、話しかけるだけでなく、自ら心配までしてくれる「親友」がある。「親友」とは自分の日々の違いに気付いてくれて、自ら行動を起こしてくれる人だ。そんな「親友」は、一人ひとりが生まれながらに持っている歯車をカチッと噛み合わせていくことで生まれる。

他には、「戦友」言い換えると「ライバル」がある。「戦友」とはお互いを刺激し高め合い、共に切磋琢磨していくことのできる人だ。そして、スポーツや勉強、趣味などにおいて同じ夢や目標、希望に向かって努力をしていると、ふと気づいたら、勝ちたいと思うことで生まれる。私には、勉強における「戦友」が一番多い気がする。その「戦友」がいると、不思議なことに定期テストがそこまで辛く感じる事がなくなるのだ。多少はしんどいことはあるかもしれないが、今回は、勝てるかな、負けちゃうのかな、それとも引き分けかな、など、ポジティブな気持ちでテストに挑むことができるのである。そして、テストが返ってきて、結果が分かる瞬間、これがたまらなく面白いのだ。たとえ負けたとしても楽しいのである。私はそれが「戦友」がいることの醍醐味だと思う。

それに対して、「トモダチ」はどうか。私が感じる「トモダチ」は例えば、したくないことを無理矢理させられたり、していることの邪魔をされたり、『あなたは私の子分だ』などといった雰囲気を出したりする人だ。このような人達と仮にケンカをしたとすると、もう二度と仲直りをしたいという気にならない。

一方、「友達」だと、ケンカをしたという現実には後悔し、即座に仲直りをしたいと思える。そして、ケンカをしたことで相手のことを前よりも深く知ることにもつながるのだ。これが、世間の言う『ケンカするほど仲が良い』ということなのではないだろうか。

このように、人生を後悔することなく過ごしていくためには「トモダチ」ではなく「友達」が必要不可欠である。だから、これからも「友達」を大切に、輝かしい未来への道を突き進んでいきたい。